

Vol.15

花はな通信

花のまちづくり情報



■田端 敏幸さん

家と庭のオリジナル木工品が調和した庭づくり ノリピーガーデン

昨年7月、第6回となる恵庭フラワーガーデニング・コンテスト「花風人」(個人部門15件、企業部門1件のエントリーがありました。)の審査が行われました。

今回は、個人部門で「花風人グランプリ」を受賞された田端 敏幸(恵み野南在住)さんにお話を伺いました。

ガーデニングを始めたきっかけを教えてください。

ガーデニングを始めたのは8年前。住まいを構える恵み野が花の街として知られたのがきっかけでした。隣近所の庭を妻と散歩がてら見ているうち、せっかく恵み野に住んでいるのだから、自分たちも仲間入りしようかと……。

最初は見よう見まねで始めましたが、周りに比べて、随分寂しい庭でしたよ。

庭づくりで工夫している点や心がけていることは?

アクセント付けに何か……と雑誌や本を読み、木材を買い込んで自分流にアレンジしたグッズを作り始めました。家と庭のオリジナル木工品が調和した「WOOD MASTER TOSHI」手作りの庭です。イメージをガーデニングで表現するのは楽しいもので、個性あふれた庭作りを目指しながら、過程を楽しみ、花を通した人ととの交流を楽しむ。それが庭造りの魅力だと思います。

「ノリピーガーデン」に多くの見学者が来ていると思いますが、特に印象的だったことを教えてください。

受け手側も想像力をかきたてられるのか、感想も通り一遍でなくさまざま。そんな楽しみもあります。東京、大阪、東北や道内各地から多くの方々

が見えられましたが、特に昨年は建物と庭を真似したいという苦小牧の方がいましたし、木工によるSL機関車作製の依頼が岩見沢の方からあり、喜んで対応いたしました。

今年はどのようなオリジナルガーデンにする予定ですか。

この時期は、いろいろとアイデアを練っているところで毎年、テーマを決めて庭づくりをしています。今年は「グッズの庭」・「音楽の庭」などを考えております。背伸びしないで自分流の庭を目指します。

◆第6回恵庭フラワーガーデニング・コンテスト審査結果

【個人部門】

審査日:平成18年7月26日(水)

氏名	住所	賞
田端 敏幸	恵み野南	花風人グランプリ
畠 美恵子	恵み野北	花風人賞
藤田 禮子	和光町	花風人賞
吉田源一郎	島松寿町	花風人賞

(五十音順)



新フラワーマスター紹介

北海道では、北国の景観に配慮した潤いとやすらぎのある個性的なまちづくりを推進するため、花の育成管理に関する知識を持ち指導、助言できる方を知事が「フラワーマスター」として認定しています。昨年、恵庭市で3名のフラワーマスターが新たに認定され、現在では計18名となり、花のまちづくりのアドバイザーとして今後の活躍が期待されます。

新フラワーマスター3名の方々に花との関わりや今後の抱負を伺いました。

コメントをしていただいた内容

- ①花との出会い。②花と緑のまちづくりとの関わり。③今後の抱負。



くわやま はなえ
桑山 華江 さん

- ①わたしの家は農家ですから、各種野菜のほか花壇苗作りをしており、物心がついた頃にはまわりにたくさんの花や緑がありました。祖父が仕事の合間にする庭いじりの手伝いや、母が庭に花を植えるのを見て育ちました。現在、家を手伝うようになります。
- ②生産者として、花苗を供給しています。恵庭市花苗生産組合に所属しており、私たちが育てた花が花いっぱい文化協会さんを通し、小中学校や黄金フラワーロード、グリーンベルトの花壇に植えられています。また、今年で18回目となる「恵庭花とくらし展」での園芸市や会場装飾のお手伝いもさせていただいております。
- ③道と川の駅「花ロードえにわ」がオープン、観光と花がますます重要になり、さらに多くの方々が恵庭に来られると思いますが、「恵庭は花がたくさんあってきれいなまちだ。」と言ってもらえるようお手伝いをしたいと考えています。



よしだ あいこ
吉田 愛子 さん

- ①子供の頃、5月になると「さかえ公園」で花の市が開かれていましたので、花や花の行事は身近なものでした。そして14年前に恵庭RBPで企画した花のツアーに参加し、ヨーロッパの歴史ある城の庭や街を花で飾るまちづくりを見学し、その素晴らしさに大変感動しました。
- ②平成17年度から「恵庭市民花ガイド」として花の見所を案内するボランティアをさせていただいており、北海道内外から恵庭市を訪ねてくださる方々に、花のまちづくりの取り組み等を紹介しています。
- ③昨年、「花とくらし展」のバスツアーに2日間で約250名の方が恵庭市内を見学してくださいました。これからも恵庭の花のまちづくりの歴史や活動を恵庭市民はもとより、恵庭を訪れる皆さんに紹介していくたいと思っています。



まつだ ようこ
松田 洋子 さん

- ①私の生まれ育った所は、小高い山のそばで家の裏側の窓からは山が見え、おもてもSLが走る向うに雨竜川があり、その彼方にも山々。そんな美しい山並みに囲まれたところでした。飲み水といえば裏山の沢の湧き水を飲んで育ちましたが、春、その沢はヤチブキやミズバショウ、カタクリで一面となり、また家の庭にはたくさん宿根草が芽をふき、中でもタチアオイは見事でした。中学生になるととなりの村の学校に通ったのですが、夏にはその帰り道、道端で働いているおばさんと花の交換をしたくらい花が大好きでした。そんな子供の頃を思い出すとても懐かしいです。
- ②水と緑のまちづくり審議会委員をさせていただいておりますが、少しでもお役にたつことができたらと思っています。
- ③フラワーマスターとしてどのように関わっていけるかわかりませんが、自分を必要としていただける場面で皆さんと一緒に考えながら、まちづくりに携わるのは楽しいことだと思います。



情報発信基地

えこりん村・道と川の駅花ロードえにわ

昨年、2つの観光施設がオープン。花のまちえにわを訪れる方々に花のまちづくりについての情報を提供する施設として、今後ますます期待が高まります。オープンその後の状況と今年のイベント等の予定をそれぞれ伺いました。

えこりん村

事務局:堀内 剛さんからコメントをいただきました。

○オープン以降の各施設について

4月に「花の牧場」と「らくだ軒」がオープン。6月1日から「銀河庭園(右写真)」「天満食堂」が加わりグランドオープンしました。オープン以来、多くの方々に来ていただき、目標来場者数30万人は9月に達成いたしました。約10haの敷地に30のテーマガーデンがある銀河庭園では、ガーデニングファンだけでなく一般的な家族連れも多く訪れていただき、季節によって移り変わる花々と風景を楽しんでいただきました。また、デザイナー、バニー・ギネス氏の遊び心あふれるガーデニングはお子様からも大変好評をいただきました。

花の牧場では、年間、約一千種の植物と一万種類のガーデニングアイテムの品揃えでお客様をサポート、特にヨーロッパの商品はご好評をいただいたところです。また、店内には2つのモデルガーデン(ローズガーデン、キッチンガーデン)があり、苗や資材の使い方の例を展示しましたし、農業展示として「とまと森」と題し、一粒のトマトの種から一万個のトマトを収穫する水耕栽培の様子をお見せでき、大変好評なものとなりました。

天満食堂とらくだ軒のレストランは、庭園や牧場を眺めながら食事ができ、のんびりとした時間をお過ごしいただけたと思いますし、また、イベントに関しては、「バニー・ギネス氏のガーデンツアーア」などの園芸に関するもの、「冬水田んぼの田植え体験」といった農業に関するもの、「自然観察」など環境をテーマにしたもの、青年会議所と

連携して行なった「花のファッショショーンショー」など様々な内容で楽しんでいただくことができました。

○今年の主なイベントについて

えこりん村は「エコロジー」を「自然の循環の輪・人ととの輪(りん)」を大切に「結束する村」のように実現していく、「農業」「環境」「文化」のテーマパークになることを目指しています。今年は、昨年よりもさらにそのテーマが明確にあらわれる取り組みをしていきたいと考えており、自然体験や実際に使用しているソーラーなどのエコ設備のご紹介、冬水田んぼの生き物調査体験などを行なっていきます。

ガーデニングは、銀河庭園2年目ということで植物の生育が進んで、昨年よりも植物のボリュームが増してくると、一年草や球根などで通年、見所をつくるように植栽を工夫したり、花の見所をめぐるサービスとして馬車を運行する予定です。

イベントでは、ガーデニングをサポートする講習会を昨年に引き続き行なって行きたいと思っていますし、自然体験や農業体験、クラフト体験、牧場体験、動物ふれあい体験、料理教室、絵本の読み聞かせ、農産物直売などを開催して参りたいと思っています。



道と川の駅 花ロードえにわ

恵庭観光協会:上田良治さんからコメントをいただきました。

○オープン以降の各コーナー(販売・展示)について

道内で87番目の登録となった道の駅花ロードえにわは、7月1日、南島松の国道36号沿いにオープンし、12月までの来場者数は約50万人を数え、市内外から大変多くの方々のご来場をいただきました。

情報コーナーでは、最新の道路・天気情報や市内の企業、市民の手工艺品を紹介するワンボックスコーナーがあり、写真展やパネル展、サークル作品展なども行っております。

ベーカリー工房カリンバでは、各種の焼きたてパンの販売を行いましたが、特に恵庭産のえびすかぼちゃを使用した“かぼちゃメロンパン”、“かぼちゃプリンパン”は、オープン以来根強い人気となりました。さらに、このコーナーで毎月数種類の新商品も販売し、「イートイン」となっていますので、焼きたてのパンをコンサバトリー(休憩所)や、館内でお召し上がりいただいております。

フード工房コンサバトリーでは、恵庭産のえびすかぼちゃを使用した“パンプキンヌードル(かぼちゃうどん)”や、パスタ、市内で育ったホエーポークのハンバーグランチなどがオープン後の追加メニューとなっております。今後も“こだわり”と“季節感”的ある商品を提供して参りたいと思っております。

ショップ花ロードでは、クッキー・パイ等の恵庭産“えびすかぼちゃん商品”や“花のグッズ”コーナー、友好交流を推進しているニュージーランド商品(直輸入品)も取り揃えております。

○今年の新たな施設やコーナー、イベントについて

今年の道と川の駅花ロードえにわでは、4月下旬に農畜産物直売所がオープンします。ここでは、恵庭産の新鮮野菜を販売する他、花苗などの販売も予定しております。

また平成20年の春には、当駅と漁川の間に水辺プラザ(ウォーターガーデン)という水と触れ合い、楽しめる施設が全面オープンする予定となっておりますのでご期待ください。

花と緑のまちづくり講演会を開催します



◆とき：平成19年3月21日(水) 開演13時00分

◆ところ：恵庭市民会館 2階大会議室

(恵庭市新町10 TEL0123-33-3171)

◆講演者：国際日本文化研究センター教授

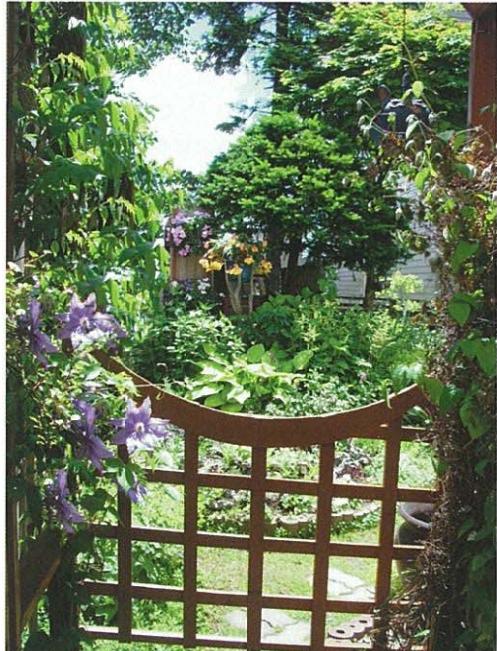
かわ かつ へい た
川 勝 平 太 氏

◆演題：「恵庭を花と森の都に」

講演者プロフィール

1948年京都生まれ。72年早稲田大学政治経済学部卒業、75年同大学院修了、85年オックスフォード大学哲学博士取得。早稲田大学教授を経て、98年より現職。04年より、NIRA(総合研究開発機構)理事を兼務。国土審議会委員、教育再生会議委員を務める。小渕内閣「21世紀日本の構想懇談会」の中心メンバー。21世紀の日本文明にふさわしいビジョンとして「富国有徳」を唱え、美しい国土を持つ、世界に誇りうる日本列島・庭園の島(ガーデンアイランズ)構想を提唱している。

最近著に、『美の国』日本をつくるー水と緑の文明論』『文化力ー日本の底力』など。



◆参加費：無料(申込み不要)

※なお、講演会に先立ち、平成18年度恵庭フラワーガーデニングコンテストの表彰式を行います。

◆主催：恵庭花のまちづくり推進会議

◆共催：恵庭市、恵庭市花いっぱい文化協会、
恵庭市緑化推進委員会

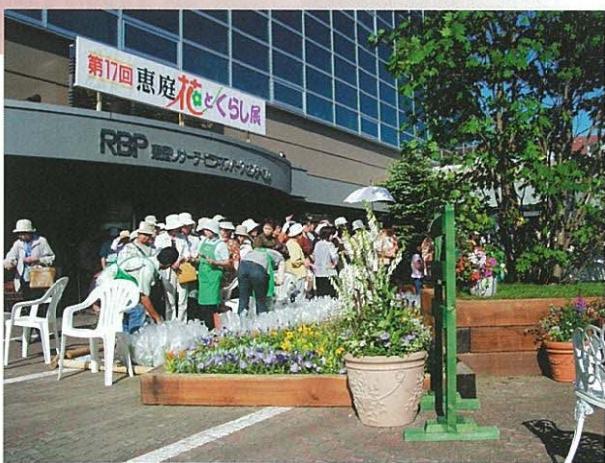
第18回 恵庭花とくらし展

とき 平成19年7月7日(土)、8日(日)10時

ところ 恵庭リサーチ・ビジネスパークセンタービル
(恵庭市恵み野北3丁目1-1)

メインテーマ 「花もよし、風もよし、人もよし、ここが恵庭」
今年のサブテーマは「色・飾・食」です。

催事内容も大好評の「寄せ植え講習会」「ガーデンツアーア」「フラワーマーケット」、「寄せ植えお楽しみ抽選販売」など盛りだくさんです。皆様の来場を心よりお待ちしております。



発行

恵庭・花のまちづくり推進会議

北海道恵庭市京町1番地

編集／恵庭市花と緑の課 TEL(0123)33-3131/FAX(0123)33-3175

■発行日 平成19年3月5日

※この「花・はな通信」は再生紙を使用しています。